慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	消費組合の限界（下）
Sub Title	
Author	浜田, 精一
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1923
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.17, No.4 (1923. 4) ,p.663(167)- 671(175)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	雑録
Genre	Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19230401-0167

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

る、隨つて又產兒育兒に伴ふ苦惱の最も峻烈なる可き貧民階級に、却つて最も普及し難き事情が存在しないであらう乎。而して一方產兒育兒の餘裕を豐富に有する富者階級が、却つて是等人生至高の義務を懈怠し放縱なる享樂を追求する誘因となるのでは無い乎。結局それは名のみ崇高にして、實は富者階級の玩具に終るのでは無い乎。否斯かる主義の提唱其ものが、既に裏面に潛む不健全なる思想を幾分反映してゐるのではない乎。

第二に縱令下層社會にも完全に實施せらるゝと假定するも、そは將して眞正なる意味に於て彼等の幸福を增進する所以であらう乎。思ふに資本主義の桎梏より被搾取階級が解放せらるゝ道は、其手段の漸進的なると急進的なるとを問はず、彼等が社會成員の絕對多數を制して其集團の力を鞏固にする事が必須の要件である。然るに彼等が產兒制限に依り其數を減少する時は、軈て集團としての彼等の鬪爭力も亦薄弱となる道理である。然らば新マルサス主義は、下層社會の刻下の窮乏を救濟すと云ふ好餌の下に、永久に彼等を資本家階級の權柄に雌伏せしめんとする陰險なる謀詐を潛に包藏するか、尠く共之を助成する結果を招徠しない乎。約言すればそれは實施を急務とする筈の社會には之を至難とする支障有り、然も其實施を假定すれば多數者の不當なる隷屬的地位を恆久ならしむる缺陷を隨伴するにあらざるかを、私は疑ふものである。

然し爰には新マルサス主義に就きて多言を費やす可きではない。唯吾人はそれがマルサスの理想と背離する事、並に此背離せる思想を發生せしめたる原因は、彼れの道德的抑制に關する信念の不徹底に存せし事を看過してはならないのである。然も缺陷は單に此點に止まらぬ。私は次に新マルサス主義が上流階級の專用に歸するとは反對に、マルサスの道德的抑制が結局貧者のみの義務と化する不公正に就きて一言したいと思ふ。（未完）

消費組合の限界（下）

濱田精一

第二は心理上の相異である。之れには二つある。一つは上流及中流階級が利己的であつて、相互扶助の觀念に乏しいからである。彼等は友人を敬遠せんがために彼の家の周圍を土塀や石垣で築き上げる。未知の人に話しかけられることは彼等の最も嫌ふ所であり、一種の危險さへ感ずる。彼等は本質的に個人主義者である。然るに勞働者は之れとは異つてゐる。彼は社會主義者、民主黨員、協働組合員となる自然的傾向を持つてゐる。相互扶助は工場の煙が濃厚な所であればある程發達する。從つて組合も之と比例してかくの如き處で發達するのである。今一つは、上流中流階級の虛榮である。彼等は店の主人や小僧に御世辭を澤山使つて貰ひさへすれば、少々品物の高い位は我慢する。そして御世辭と掛買とのために月末の支拂に困ることをも忘れて收入に不相當な金使ひをする。破產に陷るのは掛買と御世辭とに血迷ふからである。然るに、帳場を越えて茶を賣る人は、組合員を華客として取扱はないで、友人と見做すのである。而し上流中流階級をして、此組合の精神を了解せしめることは左程困難ではない。其例として、ウルフ氏の擧げてゐるのが倫敦の實例である。勿論、此例は此場合を證明するものとしては、少々不適當ではないかとも思はれるのである

が、彼の云ふ所によると、倫敦は今迄消費組合の沙漠として見做されてゐた。此は其都市が過度に大きいのと、倫敦人の心理狀態が、友愛の感と、隣人を理解する觀念が勞働者間にさへ缺けてゐたからである。彼等の性質は、勞働階級の性質と云ふよりも、寧ろ上流中流階級の性質を備へてゐた。しかし此等の障害は征服されて、今日此處では組合が急速に發達して、ウールウヰチ（Woolwich）組合の如き、其發達が現在の增加率を繼續して行くならば、間もなく英國中最大の組合となるであらうと云ふてゐる。（前述ウルフ氏の著書百頁參照）

私は往々にして、組合に上流中流階級の加入することの出來ない理由は、組合が勞働者向の物ばかり生產販賣するからであると云ふことを聞くことがある。しかし此は事の本末を顚倒した議論である。消費組合の生產物は、其質に於て決して資本家的產業の生產物には劣つて居らない。唯其種類に至つては、今日組合員の多くが勞働者であるだけに、勞働階級によつて要求せられる物品が多い。しかし、若し上流中流階級の人々が協働組合員となるならば、其販賣店は、矢張彼等によつて要求される樣な物を供給するのは理の當然である。

若しかくの如くにして、凡ての階級が組合に加入する樣になつたならば、此運動は疑ひもなく、多方面に亘つて其性質を變じ、就中今日の勞働階級的性質を大いに失ふであらう。是れ、勞働階級組合員の或者の大いに反對せんとする所である。彼等は此運動が勞働者階級間に發達したる所より受けたる傳統を失はしめること喜ばないのである。勿論之れは一應理由のある所であるが、しかし此の傳統中最も價値ある部分は民主的政治、權利の平等、言論の自由等である。之等は協働組合が他の上流中流階級に移つて行くことによつて失はれる恐れはない。

（乙）次に此組合には分配及生產上から見て限界があるか。此限界に關しては大體に於て本位田氏に倣ふことが出來る。

第一に販賣の方面から見ると、其品物は組合によつて共通的に消費されるものでなくてはならない。個々の人々によつて趣味を異にし、其要求が違ふものでは到底組合で取扱ふことは出來ない。此意味に於て最も消費組合の經營に適した物は、米、麥、其他の雜穀類、調味料、肉類、薪炭、簡單な反物等、純然たる生活必須品である。奢侈品、嗜好品は夫自身各自の好みの違ふことを意味するから、とても消費組合に適しない。日用品と雖も、高級な物になれば趣味を異にするから適しない。故に生活程度の大いに異る者が集つて一つの組合を組織することは、其組合が餘程大きくない限り經營は困難である。

第二に消費組合を生產の方面から見るならば

（一）特に廣い需要を基礎とする工業は經營困難である。一部の消費組合の消費と同時に、一般の消費を目的とせずしては成立しない工業があるが、斯かる工業は消費組合のためにのみ小規模に經營することは却つて、不利である。例へば、機械工業、運搬業、其他海外に輸出することによつて成立して居る工業は、消費組合には不適當である。

（二）或地域に住む者凡てが利用しなければ成立し得ない種類の產業も亦、消費組合で經營することは出來ない。例へば、電車、水道、瓦斯の如きは或地域に住む者殆ど全部が消費することによつて成立する工業であるが、之を任意に加入してゐる組合員が經營せんとしても、夫は

困難である。廣く市民の利用を強制するために、公共團體の經營に依らざるを得ない。

（三）共同生產の利益が少いものも、消費組合には適しない。元來、消費組合は共同すれば利益がある點に於て存立する理由がある。然るに共同生產に適せず、依然として個々の人の全部勞作に俟たなければならぬものは、消費組合で經營することは却つて困難を來す基である。此意味に於て手工業、農業等は消費組合の經營に適しないものである。

以上の限界の說明によれば、消費組合の限界は可也狹い樣に見える。然しながら日用品の生產販賣が消費組合の勢力範圍にありとすれば、各國の消費組合には尙ほ大いに發達の餘地がある。

而も、以上述べた消費組合の限界は、其觀念に於ては動きなきも、其程度に於て大いに動く餘地を持つて居る。第一、人間の生活程度は常に向上するものであるから、曩には、奢侈品であつた物も、何時かは一般消費の目的物となる。又科學の進むにつれて消費物は次第に統一される傾向を持つて居る。且、組合の範圍が擴張し、其組合員が增加すれば、比較的高き消費物も、相當な需要に達し、特異な趣味の品物も相當多數の需要者を作つて、消費組合の取扱ひ得る品物は、次第に增加するのである。（本位田祥男氏消費組合運動二二一――二二四頁）生產の方面から云つても、消費組合が大いに發達して、其需要が非常に增加すれば、曩には其規模が小さきに失して、經營困難であつた物も、生產し得るやうになる。

機械業も消費組合の一般が大いに盛になれば、夫を目的として經營が成立することが出來る。英蘭蘇格蘭卸賣組合は、可也大規模に生產を行つて居る。運輸と雖も營業として多くの貨物を運ぶ事は出來ないが、外國との取引が盛になれば其組合の貨物の運送のみで船を浮べることが出來る。英蘭蘇格蘭卸賣組合では、大分以前から消費組合の汽船が大陸を通ふて居る。ウルフ氏の言を引用すれば、「其初め一袋の小麥粉を小賣してゐたロッチデール販賣店が、今日では、年々一百袋以上を製粉するマンチエスターにある巨大なる卸賣組合直屬の製粉場を出現するに至らしめた。然らば今日の卸賣組合が、將來造船所を設ける迄に進步することは、そんなに時日を要せず、又困難なことではなからう。唯此場合、最初の進步が協働組合を組織した勞働階級に依然したと同樣に、第二の進步も亦此運動に加入する諸階級に依賴する」のである。（前述ウルフ氏著一〇四頁）

海外の需要を目的とする物も亦、望を囑することが出來る。現在、國際消費組合協働會の周旋で、各國の卸賣組合の間には、取引が行はれて居るが、其取引が大いに發達すれば、海外への輸出物も亦一國消費組合で生產することが出來る。更にウルフ氏は之に附加して、消費組合の發達して居らない外國とでも、取引して、しかも組合の原則に違反しないで行はれることが出來ると云つてゐる。それは外國の購買者に配當として支拂ふべかりし額を、自治的基金に繰込むのである。我々は亞弗利加の土民がマンチエスターの綿花を輸入するために消費組合卸賣聯合を組織する等のことは、如何に贔負目に見ても近き將來には期待することが出來ない。此場合に、亞弗利加の購買者に支拂ふべかりし配當を、英國組合運動の自治的基金に繰入れるのである。此方法によるときは、一國の消費者が他國の消費者を犧牲にして、彼の配當を貪つて

ゐるものではなくて、教育、產業條件の改善、新發明の奬勵等のための自治基金の創設又は增加のために、繰込まれるのであつて、人類生活の向上に盡力してゐるものである。

電氣水道の如き又然りである。組合が發達して、或地域の大部分が其組合員になれば、此任意組合でも此等を經營し得る。

「然しながら、消費組合に加入する者の資格としての制限は、よし前述の如く次第に廢されて行く傾向があるとしても其本質が任意的であるから、醒めたる者の任意的加入だけでは迚も各種の產業を經營することは出來ない。故に大多數が其機運に向へば、多數決によつて其反對者を强制する方法に出でざるを得ない。是れ即ち國營又は公共團體の勃興した所以である」と本位田氏は述べてゐる。（本位田祥男氏消費組合運動二一五頁）

國營の可否に就いては、ヂード氏の原論中の言葉を以て其答へに代へる。「國家が、單に政治的職能のために組織せられ、其經濟的職能は、其政治的職能の反映たるに過ぎずして、其企業の幹部が、其議會の代理者たるに過ぎざるに於ては、其企業は、恐らく健全なる發達を遂げることが出來ないであらう。」しかし、是れは經濟學の論究すべき範圍に屬しない。眞に、生產に關する國家的機能の問題は、經濟的問題ではなくして、政治的問題である。之れを概括的に解決することが出來ないのである。或國に於ては、鐵道國有は可である。日英獨の如きは其例である。或國に於ては鐵道國有不可である。佛蘭西、瑞西、亞米利加の如き其例である。蓋し、極めて民主的なる國は、國家の經濟的職能を伸長することが最も望しい國であるが、之れを實行することが最も困難な國であるからである。（Gide: Political Economy p. 211）

一方、ヂード氏は自治團體經營、又は市營の事業に關しては、「消費組合の將來に囑望する所多い我々の見地よりすれば、市營は最少の原費を以て全市民のために最も必要にして、最も一般的な欲望を充す點から見れば、畢竟一種の產業組合に過ぎない」と云つてゐる。（前述原論二一二頁）之と同じ見解は、ウエッブ氏等の取る所である。其著消費組合運動（The Consumer's Co-operative Movement）中の都市企業の起源（四二七頁―四二八頁）と云ふ所で「我々は都市又は地方政府の或形を以て、通常、消費者の組合とは考へてゐない。しかし、市廳が何等資本家の干涉や求利的動機に刺戟されないで、社會の必要とする學校敎育を興へ、或は排水、道路、清潔、燈火等市民の建康上に必要不可缺の物を興へる場合、又飲料水、瓦斯、電氣、電車等を供給し、家屋を興へ、或は旅館、料理屋を經營し、公園、音樂、劇、講演、病院等を供給する場合には、（中略）夫れは明かに消費者の結社として行動してゐるので、其組合員の資格は、其土地の各住民に法律上强制的であるだけである」。と記してゐる。

かくの如くにして、將來も任意的の消費組合と、强制的消費者團體とは、並存するであらう。しかし、文化の程度の增進と、消費者の自覺とは、强制的消費者團體の產業上の經營範圍を減少せしめ、任意的消費組合の任務を擴張することを以て必然的現象としないであらうか。現に、英國のデスボロー（Desborough）の町の全住民は、任意的消費組合員である。從つて、此町の產業に關する事務の大部分は、組合の掌中にある。又、瑞西のバーゼルの町の牛乳の配給は、全部消費者組合の手中にあるので、之れに關す

る資本家企業家を驅逐してしまつたではないか。まだこんな例は澤山ある。産業經營の强制化を要するものは、殆んど今日既に都市の手に置かれてゐる。最早や、任意的性質を以て其特色とする消費者組合をも强制的化する必要はないではないか。私は組合が任意的性質を其特色としながらも、充分今日の資本家産業制度に取つて代ることが出來ると思ふ。しかし、繰返して云ふが、之れは今日の大規模生産の改造であることを誤解してはならない。組合は規模が大きいのと、範圍が廣いのとで、個人的企業を全部排斥するわけには行かないものである。比較的古い事業、又比較的大きな事業に於てのみ、組合事業は適當である。新しい事業や、小規模の事業に於ては、市場に限りがあるから、其製品は何處へ持つて行つても賣れると云ふものではない。之れは今後も私營事業に屬すべきである。是れ、此論文の(乙)の第二の(三)に於て、手工業農業等を組合經營に不適當なものとして擧げた所以である。家具や花瓶に、思ひ付な意匠を施す人があるとせよ。そして、彼は自分で小さい店を出す能力もあり、又獨創的な作品を拵へて、組合店舗に出してある平凡な作品に刺戟を與へることが出來るとせよ。吾人は斯かる人をも貶げる必要はない。そして、若し、此新意匠が必要ならば、組合の方で買取つても好い。農業について云ふならば、良い雞の種をこしらへやうとする養雞家や、林檎や蕪に特種な風味を添へる園藝家等は、假令、組合が全國民に普及する場合でも、依然として存在し、組合企業によつて冒されることはない。是は、今日資本家制度の下にも、顧客の特種注文を受けて、其嗜好に應じて仕事をするレースの編物職人、刺繍職人、京染職人、足袋職人、刀鍛冶が存在すると同樣である。しかし、農業の方面でも、勞力節約機が大規模の農業に應用せられ得る範圍に進じて、（例へば穀類、馬鈴薯、綿花等の場合）消費者の組合式農業は發達して行けるものと期待して好い。刈禾機、收禾機、及牽引車などは、當然組合の用具となるべきものである。又、吾人は澤山な羊や、牛馬や、豚等を飼養する消費組合所屬の牧畜業も起ると期待してよい。又、木材生産の如き歲月を要するものも、一度自然林を伐り盡したあとで、自ら公的企業に屬するものと見て好からう。地方的消費組合は、又、賣野菜の培養を附近の土地で手廣く行ふこととなるであらう。今日既に英蘭蘇格蘭兩卸賣組合が、加奈陀に小麥栽培地を有し、印度に茶の栽培地を有するが如き此一例である。（完）

新刊紹介

谷口彌五郎著

アダム・スミスの經濟思想

四六版二八四頁
定價金一圓八十錢
東京同文館發兌

本一千九百二十三年六月五日は經濟學祖アダム・スミスが蘇格蘭の小邑カーコウデイに生れてから恰度二百年に相當する。今を去る約五十年以前、即ち一千八百七十六年はスミスの大著「國富論」が上梓せられてから恰も一百年を經過せる年であつた。此の年には Fortnightly Review 誌上に於けるバジョットの Adam Smith as a person や、Preuss. Jahrbücher 誌上に載せたるナッセの Das 100 jährige Jubiläum der Schrift von Adam Smith über den Reichtum der Nationen. や、イナマ・ステルネッグの Adam Smith und die Bedeutung seines Wealth of Nations für die moderne Nationalökonmie. など